

# 人体解剖実習における遺体取り違えの防止 —ステンレスタグの活用—

水谷 慶

筑波大学医学医療系技術室

## 1. はじめに

医学生にとって人体解剖実習は人体構造の理解のみならず責任感・倫理観をも養う重要なものだが、実習後の火葬時に遺体を他と取り違える等、各地の大学で不祥事が散見され問題となっている。本件では本学で行っているステンレスタグを活用した遺体の取り違え対策と課題について報告する。

## 2. 人体解剖実習と献体について

医学・歯学の大学において、献体された遺体を用いて教育のために身体の正常な構造を明らかにする人体解剖実習を正常解剖または系統解剖と呼ぶ。

献体とは教育・研究のため自分の遺体を無条件・無報酬で提供するボランティアであり、希望者は大学または献体団体へ生前登録を行う。本学では「筑波大学白菊会」が組織されている。登録および実際の献体実行には家族の同意が必要である<sup>[1]</sup>。

私は人体解剖実習担当の技術職員として、実習の準備・補助の他、献体希望者の生前登録等の筑波大学白菊会の運営、遺体の搬送・防腐処置や遺族との連絡・交渉、実習後の遺体の火葬、遺骨の管理・返還と献体に関する業務全般に携わっている。

## 3. 他大学での不祥事と日本解剖学会の提言

平成 31 年、北海道大学歯学部にて実習後の火葬の際に遺体の取り違えが発生した<sup>[2]</sup>。また令和 3 年、兵庫医科大学にて火葬後の遺骨の返還を怠っていたことが発覚した<sup>[3]</sup>。更に令和 4 年、島根大学医学部にて防腐処置が適切に行われていない遺体が多数発見された<sup>[4]</sup>。

これら不祥事の中で特に遺体取り違えの再発防止のため、令和 2 年 3 月に日本解剖学会が提言をまとめた。以下一部抜粋する。「解剖学教室は、献体番号等が記載された個人識別票を身体に付し、この個人識別票を用いて献体の受入からご遺骨返還まで一貫して管理する。(中略) 個人識別票は火葬後も判

読可能な金属製プレートを用い、火葬後に回収・照合した上で、厳封の上保管する。」<sup>[5]</sup>

## 4. ステンレスタグを用いた遺体の管理

これまで本学では献体番号を記入した木札で遺体を管理してきたが、提言を受け令和 2 年度より番号を打刻したステンレスタグの併用を開始した。

遺体の搬入後、防腐処置を行うために棺から遺体を出した最初の段階で右足小指にステンレスタグを、左足親指に木札を結び付ける。その後、遺体の保存中から、実習を開始するために遺体を実習室の解剖台へ移動する際、実習期間中、実習終了時の納棺時、火葬の際といかなる時でもステンレスタグは遺体から取り外さず管理する。

ステンレスタグの寸法は 25×54mm、厚さ 1mm で、材質は SUS (ステンレス鋼) である。防腐液による水分が存在する状態で平均 1~2 年保管するため錆びにくいものを採用した。使用にあたっては献体番号を上下に 2 箇所、1 字ずつ金槌で打刻する。木札と異なり火葬後も献体番号が判読可能であり、遺体取り違え策として有効である。



図 1 ステンレスタグおよび木札



図2 火葬後のステンレスタグ

## 5. 課題と今後の取り組み

本学では実習後の遺体の火葬を年間約 30～40 件行うが、そのうち 0～1 件は火葬後にステンレスタグが見つからず回収できない。

タグの回収は火葬場職員に依頼する。火葬の現場では、遺族による収骨の前に職員が遺骨を整える方法を採用する火葬場が多く、その際に遺骨からタグを除けて頂き我々に渡してもらおうことが多い。

一方で本学では原則として故人の住所の最寄り火葬場で行っており、火葬場ごとに設備、人員の配置や火葬の流れは様々である。更に、灰や細かい骨の中からタグを探す作業は通常の火葬では発生しないイレギュラーなものであり、我々はあくまでもそれをお願いしている立場である。火葬場では1件2時間前後の火葬が一日に数件～十数件行われることが多く、タグが見つからなかった場合に再度の搜索を要請することは、火葬場・遺族のスケジュールを乱すことにもなるため現実的には難しい。

また、日本解剖学会の提言では他に、歯型、CT画像、血液サンプルなど個人照合の際に必要な情報の取得・保管を推奨している。これらの取得・保管には専門的な設備・技術が必要となるため、現在本学では取得をしていないが、取得・保管をしている大学の担当者との情報交換は継続して行い、方法や費用対効果についての知見を持っておきたい。

本学では前述の通り、遺体搬入後の最初の段階でタグを付け以降外さずに管理することを徹底しており遺体取り違えの疑義が発生したことはない。一方で各地の大学における不祥事により献体に対する社会の信頼は危機に瀕しており、これ以上の不祥事は本学・他大学に関わらず絶対に許されない状況にある。管理体制の維持・強化と職員としての更なる意識向上に努めつつ、今後も業務に臨みたい。

## 参考文献

- [1] 財団法人 日本篤志献体協会  
<http://www.kentai.or.jp/>
- [2] 北海道大学 調査結果 (概要)  
<https://www.den.hokudai.ac.jp/doc/shigakubu-20190830042853.pdf>
- [3] 兵庫医科大学 ご遺骨の返還手続き漏れについて  
<https://www.hyo-med.ac.jp/files/20220316/00fe2e277557fae3c7e1c07e6731a67d9eb238e3.pdf>
- [4] 島根大学医学部 調査結果報告書【公表用】  
[https://www.shimane-u.ac.jp/docs/2022071900025/file\\_contents/report20220706.pdf](https://www.shimane-u.ac.jp/docs/2022071900025/file_contents/report20220706.pdf)
- [5] 一般社団法人日本解剖学会  
正常解剖における遺体取り違え防止に関する提言  
[https://www.anatomy.or.jp/file/pdf/guideline/miss\\_remain\\_s\\_200830\\_proposal.pdf](https://www.anatomy.or.jp/file/pdf/guideline/miss_remain_s_200830_proposal.pdf)

## 謝辞

献体関連業務にあたり平素よりご指導を頂いております  
筑波大学医学医療系 武井陽介教授に感謝申し上げます。